

る疲労は今度の測定法によって認められない。Ⅱ 月曜日の登園時に6.5に尿変化を認めた。Ⅲ 金曜日の登園時に6.4に尿変化を認めた。Ⅳ 秋季運動会における下腿周測定では15名中、+12名、+3名、-0名で有意の差を認めた。

D 考察 Ⅰ 結果Ⅱ、Ⅲの尿変化は登園時のみで退園時には(一)であることから、前日の疲労が持ち越されたものと考ええる。即ちⅢは前日の睡眠不足が原因であったので、午後の午睡で回復したものとみられる。Ⅱもまた、土曜日から母親の実家に遊びに行つて日曜日夜帰宅した。この場合も午後の午睡で回復している。Ⅱ 4月から11月までの全園児発育は、体重15~4.0kg増加で良好である。Ⅲ 多くの幼児を少数で同一時刻になるべく正確に検査出来る幼児疲労度測定法研究の必要性を認める。(大会発表論文抄録43頁)

幼児の食物好嫌について (一)

(保育所における給食調理法と保育の影響について(1))

広島・安田女子短期大学 稲田 準子
広島・ひかり保育園 西川 純子

保育園における給食中、とくに嫌いな食品に対して、調理法、保育の方法がどのように影響するかに問題を限定し、嫌いな食品例として、予備調査の結果から人参について調べてみた。ここでは、保育園での給食を中心に報告する。

はじめに予備調査として、幼児の環境調査書等に嫌いな食品として多くあげられた人参、ねぎ、魚肉、ほうれん草、大根をハガキ

大の用紙に描き、幼児五十名に嫌いな順序に並べさせた結果、人参が一番嫌いな食品としてあげられ、ねぎがこれに次ぐ。

広島市近郊、八木ひかり保育園で、人参を使った給食を、桐原給食主任の考案により次の献立で12回実施した。(野菜サラダ、てんぷら、煮込み、煮め、野菜汁、油いため、酢和え、カレー汁、なます、オムレツ、ピーナツ和え) 園児45名を対象として、全部食べた園児と、残した園児とに分けて比較してみると、全部食べた園児の割合が、野菜サラダでは80%で一番高く、最も好まれている。一般に大きく切った場合より小さく切つて、あまり形がはっきりわからない方がよく食べる傾向がある。但し、料理は、味つけによっても大きく影響するので、その点も考慮しなければならぬが、好きな食品と組合せた場合、(例、オムレツ)にも残量が少ない。

次に園児を二群に分け、A群には創作童話「人参を食べた坊やと食べない坊や」(キリンの子どもが、人参を食べなかつたら弱くて、走つてもびりだったが、食べたら強くなった)というような内容のお話を食直前にする。B群には、何も話さず、後両群同一の食事を与え、両群を比較してみると、両群間に有意差がみられ、A群の方が残量が少ない。但しこの差が持続するものかどうかは、更に検討を重ねてみる必要があると思われる。

食物好嫌については条件が複雑で、簡単に結論が出せないが、調理法と共に、保育中のお話などもまた、食べる量を増すのではないかと考えられる。但し、この対象群について言えることがどの程度一般に言えるかは、考察の余地があり、更にこのような調査においてA群、B群として選ばれたことが、園児に特別な感を持たせ、効果を促進したのかも知れないと考えられる。更に調査を進め、給食を効果的に行なうよう、研究して行きたい。(大会発表論文抄録76~77頁)